

令和4年9月16日

白老町議会
議長 松田謙吾様

産業厚生常任委員会
委員長 広地紀彰

所管事務調査の結果報告について

本委員会は、所管事務調査を終了したので、その結果を次のとおり報告します。

記

- 1 調査事項 常任委員会
新型コロナウイルス感染症や高齢化の影響を捉えた白老町
の高齢者の実態と対策について
- 2 調査の方法 事務調査
- 3 調査日程 令和4年7月26日(火)
令和4年8月19日(金)
- 4 出席委員
委員長 広地紀彰 副委員長 森哲也
委員 及川保 委員 西田祐子
委員 久保一美 委員 長谷川かおり
委員 貳又聖規
- 5 説明のために出席した者の職・氏名
高齢者介護課長 山本康正 高齢者介護課主幹 小川千秋
高齢者介護課主査 宮古つむぎ
- 6 職務のために出席した者の職・氏名
事務局 局長 本間力 主査 八木橋直紀
主査 小山内恵

7 調査結果

本委員会は、担当課の説明を受け新型コロナウイルス感染症や高齢化の影響を捉えた白老町の高齢者の実態と対策についての所管事務調査を終了したので、その内容を次のとおり報告する。

【コロナ禍における白老町の高齢者の実態について】

コロナ禍による長期間の活動自粛が高齢者に与えた影響を把握するため、町では健康体操とストレッチ教室に参加されている方を対象にアンケート調査を実施した。119名の方に回答いただき、「外出する機会が減った」、「横になる、座っている時間が増えた」と回答された方が多く、この活動低下の影響と思われる「忘れっぽくなった」、「歩く速さが遅くなった」という回答も多く見られた。

地域包括支援センターへの相談件数はコロナが流行する以前と比較し、転びやすくなったなどのフレイル関連が急激に増え、要支援1の新規認定者数が令和元年度と比較して令和3年度に倍増した。今年度は既に昨年を大幅に上回るペースで認定されており、コロナの影響によりフレイルに陥っている方が増えていることが伺える。

コロナ以前はフレイルの評価基準5項目のうち2項目に該当のプレフレイルの状況にあった方がコロナによる活動自粛の影響で全項目に該当しフレイルに陥った事例があるが、医療や介護サービスの適切な利用により3項目の該当まで改善し健康な生活を取り戻すことにつながったため、きめ細やかなフレイル予防や重症化予防に取り組むことが重要である。

【コロナ影響下におけるフレイル予防の取り組み】

コロナ禍の活動自粛が高齢者に与えている影響の現状を踏まえ、以下の三つを重点にフレイル予防に取り組んでいる。

1. 感染予防対策を講じた上で通いの場をできるだけ休止しないで継続して実施し、フレイル予防につなげる。
2. 地域見守りネットワークや生活支援コーディネーター、コミュニティナースなどの社会資源を有機的に連携させ、地域での見守りを継続する。
3. 介護予防・重症化予防のための支援として、フレイル予防に関する情報提供を積極的に行うほか、個別のケースにきめ細やかに対応する。

【委員会意見】

急速な高齢化に加え、コロナ禍による外出自粛、各種会合や健康事業の中止により、フレイルの増加傾向が報告されている実態を踏まえ、委員会として以下のとおり意見をまとめた。

第1に、コロナ禍におけるフレイル対策の切実性を捉えた予算措置と体制強化が求められる。人材確保への支援や包括支援センター、訪問看護ステーションや社会福祉協議会、町立病院などとの一層の連携を図る必要がある。

また、生活支援コーディネーターなどの制度活用や、コミュニティナースなど、フレイル予防の主体者育成を重視すべきと考える。

第2に、事業の検証と更なる成果の向上に注力すべきである。具体的には、固定電話がない世帯でも緊急通報システムを利用できるような配慮や、サロンなどの集いの場の開設への活動や感染予防対策への支援の必要性があると考えられる。また、パークゴルフなど、白老の社会資源を活用した多彩な事業展開をしてはという建設的意見も出された。

こうした事業形成の際には、介護度の悪化事例などの具体を捉え、分析し政策に反映させていくべきである。

新型コロナウイルス感染拡大防止の趣旨は十分理解でき、その渦中にありながらも可能な限り事業を推進する担当課、職員の尽力は評価する一方、各種健康対策事業の重要性を再認識しつつ、感染対策指針に基づいて万全を期し、事業の実施に一層邁進されることを求めるものである。